

平成30年10月22日(月)

大人と子ども

大人と子どもの話である。司馬遼太郎はこう書いている。

「人間はいくつになっても精神の中に豊かなコドモを胎蔵していなければならぬ。いい音楽を聴いて感動したり、担任の先生を心から尊敬するように他者に偉大さを感じることができるのは、人の精神の中のコドモの部分である。」

学問において、並外れた仮説を立てたり、空や雲を見て、宇宙や神を感じるのもコドモの部分であるとする。正義を感じることもまた同じであり、万人は感動を持てる人生を送るためにも自身の中のコドモを蒸発させてはならないと説く。

人のコドモの部分は、よほど大切に育てていかないと年配になって消えてしまうのだという。

さて、内田樹はこう書き記す。

「どんなよくできた社会システムでも、それを永続的に機能させるためには一定数の大人が必要であり、システムの保全を自分の仕事とする大人がいないようならそのシステムは瓦解する。」

道路に落ちているごみや空き缶を拾うことが、「みんなの仕事」であって「自分の仕事」としないとするのがコドモであって、コドモばかりになると、責任をいつも回避して、出来事は想定外であるとしてしまう。コドモは自分のこととして考えることをしない。

どこかで聞いたことがあると思ったら、津波に襲われた原子力発電所を保有した電力会社の幹部のような発言であるとも言える。

総じて、磐城高校の中にもいろいろな大人と子どもが偏在する。私の中にも、大人の部分と子どもの部分が顔を出す。

その時に考えていることは、大人の狡猾さにはきちんとふたをして、子供の無神経さにはカツを入れるということだ。作戦として大人になったり、子供になったりすることがないように戒めている。

大人と子どものことは、いつも心にとめておこう。